

三重県

水の歴史に思いを馳せる

高田中学校 二年

渡辺 心晴

今年もこの季節がやってきた。去年の夏、私は地元の地域を守る「蓮ダム」を見学し、ダム湖の巡視や水質調査・点検を行いながら職員の方とお話しをする貴重な機会を得た。蓮ダムを訪れる前に、祖父より聞いた話が印象深かった。曾祖父は元々、三重県飯南郡飯高町青田という所に住んでおり、林業で生計を立てて暮らしていた。しかし昭和三十四年にこの地域を襲った伊勢湾台風の影響で、この地域の治水計画が始まり、蓮ダム建設を機に、ダム下流の飯高町森の大飼という地域に移転した。最終的に青田地区・蓮地区・猿山地区の192戸が移転をした。計画では、曾祖父の生家は家の軒に水がくる位置にあり、裏にある先祖代々の墓も水に沈むということだったそう。はじめ地域住民はダム建設に反対していたが、同じ三重県南部地域の水資源である宮川水系には既に宮川ダムがあり、ダムの洪水調節により伊勢湾台風の洪水被害を最小限に食い止めていた。そのため甚大な被害を受けた櫛田川水系にもダムによる治水計画は必須だった。こうして曾祖父の生家は蓮ダムの底に沈んだわけだが、その時の気持ちを祖父に聞いてみた。「おやじの生家がダムの底に沈んだのはさみしいが、地域の安全のためには仕方なかったんやろうな。今でも墓参りにいくと想い出す。」と話してくれた。現在お墓はダム湖の脇の土地にお骨と墓石を移したそう。

同時に私も思い出したことがある。小学校五年生の時に、同じ飯高町にある現在は廃校になった波瀬小学校にデイキャンプへ訪れた。目の前を流れる波瀬川でアマゴの掴み取りをした。水中ゴーグルでのぞいた川の中はとても透き通っていて、遠くまで見えたことを今も鮮明に覚えている。あの時の透き通った

水も、今日の前のコップに入っている水も、蓮ダムで育まれていると気づいた。何だか不思議な気持ちだ。蓮ダムの底に沈んだ村の人々の生活。それは十三歳の私にとってはとても遠い過去の記録だと感じる。しかし蓮ダムのおかげで大切な水や安全な暮らしが今ここにある。そう考えたら蓮ダムを通して過去と今が繋がっているように感じた。見たこともない曾祖父の生家が懐かしく想え、タイムスリップしてお礼を言いたい気持ちになった。

去年蓮ダムの職員の方とお話する機会をいただいた時、「なぜダムを守る仕事を選んだのですか？」と質問した。職員の方はダムには水害から地域を守る・水力発電・水田などへの流入機能の維持・水道用水の供給という大切な役割があることを教えてくれた。そのうえで、「自分がこの南勢志摩地域の水の供給と安全を守っているという大きな責任にやりがいをもって仕事に臨んでいます」と教えてくれた。今私の目の前にあるコップの水に、ダム湖職員の方の想いが注がれた気がした。

過去・現在そして未来へと、いつの時も私たちにとって身近にあり大切な水。ふとこの水の歴史に思いを馳せる日を、これから私は「水の歴史に思いを馳せる記念日」に制定し、あらためて水の恵みに感謝しようと思う。